

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	利用者の日常生活の様子を分かりやすく定期的に家族へ知らせています
	内容	施設では利用者の日常生活を家族に知らせる手段として、ホームページによる施設案内、ハトホームの広報紙「はとほーむ」、法人が発行している「村山苑だより」などがあり、施設での生活の様子を分かりやすく家族へ伝えていきます。広報紙「はとほーむ」では、利用者の運動の様子や食事風景、クラブ活動の様子、カラオケやマージャンなど娯楽の様子、タオルやエプロンたみ、利用者が楽しみにしている買い物ができる売店風景などの施設生活を分かりやすく紹介しています。
2	タイトル	「おいしく食べる」をテーマに、行事食や選択食、お好み食など多彩な食事が用意されています
	内容	利用者にとってハトホームは生活の場です。利用者の毎日の楽しみに食事があり、ハトホームでは「おいしく食べる」を食事提供サービスのテーマにしています。季節が分かる食事、行事にちなんだ行事食、利用者嗜好調査から用意された、メニューから選ぶお好み選択メニュー、施設外から取り寄せた外食の提供、毎日の午後の楽しみとなる「おやつ」など多彩な献立が用意されています。これらの「おいしく食べる」食事提供サービスの工夫は偶数月に開催される給食委員会で検討されています。
3	タイトル	地域ニーズを把握し、地域に開かれた施設となるよう努めています
	内容	生活相談員を1名配置し、地域住民の福祉の総合相談窓口「暮らしの相談ステーション」を開設して相談に乗っています。施設では、小中学生の体験学習、ボランティアや実習生の受け入れ等、利用者との世代間交流を進めています。また地域貢献活動の一つとして、NPO法人と協議をしながら施設の中庭で、子育て広場「ハトの家」を近隣の乳幼児親子の遊び場として開放しています。施設内の廊下を利用して、地域住民の作品展示をしたり、会議スペースや備品の貸し出し等も行い、地域に開かれた施設となっています。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	利用者支援に関する書式等の整理整頓による書式の統一化が望まれます
	内容	特別養護老人ホームとショートステイで使用されている施設サービス計画書やアセスメントシートなどの利用者支援に関するシートはパソコン上で共有されていますが、その多くが手書きによる記録形態となっています。また過去の書式と最新の書式が混在しているものもあります。施設では業務の効率化、書式の統一化、仕事の進め方、職員間の情報共有等に今後取り組む予定になっています。書式、記録方法、保管方法などの共通化、整理整頓等、管理方式の統一化が望まれます。
2	タイトル	職員の意向や経験に基づいた、個別人材育成計画の策定が期待されます
	内容	職員のスキルアップのための資格取得支援や各種研修実施など、積極的に資質向上に取り組んでいますが、職員個別の育成計画の策定が不十分のため、中間層の職員育成も課題となっています。職員アンケートでも、職員の育成、指導に関する計画や人材育成の仕組みについて改善点として取り上げられています。人材の確保育成のためには、個別年間育成計画を作成し、これに基づいた個別研修計画を連動させていくことで、中間層の人材育成だけでなく組織力の向上にも繋げていく事が期待されます。
3	タイトル	情報共有を含め、一丸となった職員体制の構築が望まれます
	内容	利用者の個別ファイルにはサービス計画書や介護記録等の必要な情報が収納されています。しかし全ての記録が収められているわけではなく、個別機能訓練計画は機能訓練指導員が、看護記録は看護師が管理しているため、非常に分かりにくい構成になっています。定期的に見直されるアセスメントシートは内容に変更がなければ日付だけを鉛筆で書き直す手法がとられています。一刻も早く介護ソフトを導入して一元管理を実現するとともに、職員間の情報共有と相互協力体制の確立が望まれます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の日常の生活の様子を分かりやすく定期的に家族へ知らせています
	内容	施設では利用者の日常生活を家族に知らせる手段として、ホームページによる施設行事案内、ハトホームの広報誌「はとほ一む」、法人が発行している「村山苑」だよりなどで利用者の施設生活の様子を分かりやすく家族へ伝えています。施設広報紙「はとほ一む」では、利用者の健康の源である運動（機能訓練）や 日々の楽しみである食事風景、クラブ活動の様子、カラオケやマーじゃんなど娯楽の様子、タオルやエプロンをたたむなどの取り組み、利用者が楽しみにしている買い物ができる売店風景などの施設生活を分かりやすく紹介しています。
2	タイトル	楽しんで食事を食べられるように食事内容や環境づくりを工夫しています
	内容	誕生日の方にはお祝い膳を用意したり、季節を感じることでできるメニューや旬の食材、イベントや行事に合わせた献立作り等、楽しんで食事を食べられるように内容を工夫して提供しています。また、利用者が自分でおかずを選ぶことが出来るお好み選択メニューや施設外から出前で取り寄せる「お好み食」の提供、午後にはおやつも用意される等、利用者の食事サービスに取り組んでいます。食事の席は決まっていますが、希望があれば席を変更したり体調によって食事時間をずらす等、柔軟に対応しています。
3	タイトル	地域のニーズを把握し、地域に開かれた施設となるよう努めています
	内容	生活相談員を1名配置し、地域住民の福祉の総合相談窓口「暮らしの相談ステーション」を開設して相談に乗っています。当施設では、小中学生の体験学習、ボランティアや実習生の受け入れ等、利用者との世代間交流を進めています。また地域貢献活動の一つとして、NPO法人と協議をしながら施設の中庭で、子育て広場「ハトの家」を隣の乳幼児親子の遊び場として開放しています。施設内の廊下を利用して、地域住民の作品展示をしたり、会議スペースや備品の貸し出し等を行い、地域に開かれた施設を目指しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者支援に関する書式等の整理整頓による書式の統一化が望まれます
	内容	特別養護老人ホームとショートステイで使用されている施設サービス計画書やアセスメントシートなどの利用者支援に関するシートはパソコン上で共有されていますが、その多くが手書きによる記録形態となっています。また、過去の書式と最新の書式が混在しているものもあります。施設では業務の効率化、書式の統一化、仕事の進め方、職員間の情報共有等に今後取り組む予定になっています。書式、記録方法、保管方法などの共通化、整理整頓等、管理方式の統一化が望まれます。
2	タイトル	職員の意向や経験に基づいた、個別人材育成計画の策定が期待されます
	内容	職員のスキルアップのための資格取得支援や各種研修実施など、積極的に資質向上に取り組んでいますが、職員個別の育成計画の策定が不十分のため、中間層の職員育成も課題となっています。職員アンケートでも、職員の育成、指導に関する計画や人材育成の仕組みについて改善点として取り上げられています。人材の確保育成のためには、個別年間育成計画を作成し、これに基づいた個別研修計画を連動させていくことで、中間層の人材育成だけでなく組織力の向上にも繋げていく事が期待されます。
3	タイトル	情報共有を含め、一丸となった職員体制の構築が望まれます
	内容	利用者の個別ファイルにはサービス計画書や介護記録等の必要な情報が収納されています。しかし全ての記録が収められているわけではなく、個別機能訓練計画は機能訓練指導員、看護記録は看護師が管理しているため、非常に分かりにくい構成になっています。定期的に見直されるアセスメントシートは内容に変更がなければ日付だけをエンピツで書き直す手法がとられています。一刻も早く介護ソフトを導入して一元管理を実現するとともに、職員間の情報共有と相互協力体制の確立が望まれます。

No.		特に良いと思う点
1	タイトル	虐待防止に積極的に取り組んでいます
	内容	「虐待防止ブック」の作成や虐待防止マネージャーの配置、全職員対象の虐待防止研修を実施するなど、法人全体で虐待防止に取り組んできましたが、ヒヤリハットと事故報告書は同じ書式を使っていたため、記載が難しい状況でした。ヒヤリハットのみを簡単に報告・検討できるように、メモ形式にして、サイズも小さくしたことで、報告件数が大幅に増加しました。会議や打ち合わせ等でヒヤリハットを丁寧に検討して、不適切ケアの気づきや虐待の早期発見ができるように職員全体で取り組んでいます。
2	タイトル	利用者の様子が良く分かる内容の広報誌を、毎月発行しています
	内容	施設の広報誌であるA4版4ページの村山苑「はとほーむ」を毎月発行しています。この広報誌には毎月の行事や職員の自己紹介、食事など盛りだくさんのプログラムの様子が写真入りで紹介されており、事業所での活動が良く分かるようになっていきます。広報誌の配布先は利用者、家族のほか地域の居宅介護支援事業所、地域包括支援センターなどに配布されて、利用者、家族のみならず、ケアマネジャーからも評価を受けており、利用者、家族ならび関係者・関係機関との連携強化に繋がっています。
3	タイトル	
	内容	
No.		さらなる改善が望まれる点
1	タイトル	入浴をより快適に支援できるような体制づくりが望まれます
	内容	介護負担の増加や浴槽設備の問題等から居宅での入浴が困難になり、施設での入浴を希望する利用者が増えています。職員の入浴支援体制を見直し、希望者の受け入れ人数を増やす等の工夫をしていますが、浴槽は段差があるため、利用者の状況によっては、浴槽を使えないことがあります。特養の浴室の空き時間を利用したり、シャワー浴に切り替えたりしながらなるべく多くの入浴希望に応えられるように取り組んでいますが、特養とさらに連携を深めながら、機械浴等も取り入れられるような体制づくりが望まれます。
2	タイトル	介護ソフトの導入による記録方式、様式の統一が望まれます
	内容	法人は特別養護老人ホームから認可保育園まで、様々な福祉サービスを提供していますが、法人内をコンピュータネットワークで結ぶ等のシステム構築が未だなされていません。当サービスにあっても介護ソフトの導入がなされておらず、各種記録に関しても手書きによる部分が多く残っています。文書管理のペーパーレス化やネットワーク構築は一朝一夕に進展できるものではありません。一刻も早いシステム導入と、同一サービスにおける様式の統一等が望まれます。
3	タイトル	
	内容	

No.		特に良いと思う点	
1	タイトル	合築している保育園との交流を利用者に提供しています	
	内容	当施設と同じ建物内に法人が運営する保育園があります。このような環境を有効に活用して、施設では利用者の活動プログラムに保育園児との交流機会を定期的に設けて利用者と保育園児の交流できるプログラムを設定し、利用者に喜ばれています。利用者は保育園児と歌や遊戯などを通して触れ合い、園児と一緒に身体を動かし、おしゃべりするなどを楽しんでいます。	
2	タイトル	利用者の日常の生活の様子を分かりやすく家族へ知らせています	
	内容	施設では利用者の日常生活を家族に知らせる手段として、法人ホームページ、法人機関誌、当施設が毎月発行している広報紙「ほんちようケアセンター」を用意しています。広報誌では、利用者の健康の源である運動（機能訓練）や日々の楽しみである食事風景、クラブ活動の様子、カラオケやマージャンなど娯楽の様子、ドライブ、創作作品の紹介、イベントの紹介、ボランティアとの交流、関連事業所の紹介、健康課題に関する看護師からのアドバイス、管理栄養士からはレシピの紹介など身近な話題が豊富に用意されて利用者から好評を得ています。	
3	タイトル		
	内容		
No.		さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	各種マニュアルの整備が期待されます	
	内容	マニュアルは事務所の決められた場所に保管されていますが全てのマニュアルが整っているわけではありません。職員の入れ替わりもあり、利用者の重度化も今後予想されますので、身体介助を中心とした手順書等、必要なマニュアルを順次整え、適切に整理することが望まれます。どのようなマニュアルがあるのかも一覧的な整理を行い、マニュアルの活用方法についての検討も望まれます。職員の希望もあり、マニュアル整備の準備が始まっています。成果が得られることを期待します。	
2	タイトル	職員育成計画の策定を期待します	
	内容	職員への指導が十分に行き届いていない面があるようです。初期の計画では、レベルに合わせた内部研修の実施と、研修内容を活かせる環境整備、OJT、研修等による身体介護のスキルアップなどが挙げられています。組織としての体系的なキャリアアップ制度や育成計画は今のところ整備されていません。取得したい資格、習得したい技術など本人の意向も加味した職員育成計画の策定を期待します。	
3	タイトル		
	内容		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	医療機関や看護師から健康に関する指導や助言などと、生活習慣病予防にも取り組み退所後の自己管理に向けた意識づけに努めています
	内容	利用者の健康維持には健康診断と内科医、精神科医が疾病や問題のある利用者への巡回と、訪問歯科医による全利用者対象に年1回歯科検診を実施しています。体重や血圧測定、検診や巡回の結果を看護師が管理し推移を見守り、糖尿病や肥満などの利用者には「いきいきプロジェクト」に参加してもらい、体操やボール運動など体を動かす習慣を身につけ、週1回体重測定を実施し、利用者が効果の有無を確認するなど生活習慣病予防に取り組んでいます。この取り組みは自立して社会に出ていく準備の一環として自己管理に向けた意識づけの支援になっています。
2	タイトル	利用者が望む自立生活につなげることができるよう、利用者の「今」を知ることから、「将来」に向けて適切な支援の提供に取り組んでいます
	内容	利用者が辿ってきた歴史は、細かな項目等で構成している各種アセスメントシートにて利用者の全体像を把握できるよう整理しています。利用者の希望や要望を聞き取り、アセスメントに対するニーズ整理表を基に、各フロアで検討を重ね個別支援計画を作成しています。個別支援計画の目標は利用者の希望に沿う形で、施設内自立、生活介護など、大体2項目に分けて設定しています。利用者が意識して取り組み、利用者が望む自立生活につなげることができるよう、利用者の「今」を知ることから、「将来」に向けて適切な支援の提供に向けて取り組んでいます。
3	タイトル	居宅生活訓練事業、認定就労訓練事業など、施設の使命を果たすべく取り組みに尽力しています
	内容	先駆的に取り組んできた「居宅生活訓練事業」は循環型施設の機能を充実させるべく取り組んでいます。また、生活困窮者支援の使命も果たすべく、法人内の「むらやまえん生活相談所」と連携して地域の様々な方々が必要なサービスを受けることができるよう取り組んでいます。その他、認定就労訓練事業は中間的就労の場として就労支援プログラムにて実施しているなど、「福祉サービスを必要とするすべての人々に、生命の輝きを見出すことの出来る福祉サービスの提供する。」理念に沿った事業展開が行われています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	施設の中長期展望のまとめと法人の中長期計画策定が期待されます
	内容	法人理念は、事業計画説明会での発信や事業計画書での反映など、浸透されていることが推察されます。しかし、その具体策、事業計画などは各施設に任せているようです。施設整備計画は統一した見解を持っていますが、職員の中長期における育成の視点、支援に関する育成の視点、地域との連携に救護施設はどのような関わりを持って地域貢献するか等、今後のあるべき姿について、法人経営層で情報を収集し一定程度の方向性を明確にすることが期待されます。法人の中長期計画を軸に、当施設としても中長期計画の中で明文化する取り組みが期待されます
2	タイトル	個々に期待する役割や能力向上を意識した個別育成計画の策定が期待されます
	内容	これまで面談の時間を使って、経営層からの職員に期待する事の発信、職員の意識の把握や来年度の研修ニーズの把握などを行ってきましたが、人事・給与制度見直しや人事考課制度の導入など等、人材育成や定着の仕組みが法人内で統一されました。人材の定着・育成に向けて、人事考課制度で示す、各職層に求められる基準等に照らし合わせて、個々に期待する役割や能力向上を意識した面談、研修ニーズの把握を行い、全国救護施設協議会主催など、これまでの研修プログラム等も活用しながら、個別育成計画に反映させることが期待されます。
3	タイトル	利用者の状況把握や効果的なモニタリングを行うために必要な記録の内容、質・量について、職員間で検証し工夫することが期待されます
	内容	利用者の個別支援の状況は、利用者の状況に合わせてモニタリングを行い、利用者、職員間で共有しています。日々の利用者の様子は支援ソフト内に支援内容を項目別に記載して、どのような内容の記載なのかを分かりやすく整理しています。その一方で、個別支援計画に掲げた目標に対する利用者の取り組み状況や職員の支援状況を把握するには、記載内容からの情報ではまだ不十分な点や項目の設定の仕方など、まだ改善の余地があります。効果的なモニタリングを行うために必要な記録の内容、質・量について、職員間で検証し工夫することが期待されます。

〔全体の評価講評：救護施設〕

平成30年度

〔事業所名：さつき荘〕

No.	特に良いと思う点
1	<p>タイトル ペンフレットやホームページのリニューアルに取り組み、特徴、役割等を明示して救護施設への理解が深まるよう注力しています</p> <p>内容 施設では、ペンフレットやホームページのリニューアルに取り組みました。ペンフレットは、まず視覚的に興味を持たせ、持ち帰らせるよう工夫を施し、さつきボリッシュ（倫理行動綱領）の抜粋を載せて施設の支援に対する考えを明示しています。ホームページは、救護施設におけるサービスを分かりやすく示すと共に、今後の人材確保につながることを視野に、掲載内容を精査しました。さらに、保護施設での役割・機能、自立を目指す循環型施設であることなどを詳細に載せ、利用希望者や福祉関係者の救護施設への理解が深まるよう注力しています。</p> <p>タイトル 「食」を通して利用者の毎日の生活の楽しみと主体性を引き出すことができるよう趣向を凝らして提供しています</p> <p>内容 「お好みランチ」や「さつきグルメ」などの行事食や選択食、「お楽しみ食事会」は利用者や職員の間、利用者家族、ボランティア、地域の方々、通所した元利用者と一緒に調理をして料理を楽しむ会など、趣向を凝らして食事提供が行われています。また、食事に関する意見交換や食と健康のことに関する知識を得る場として、食事懇談会もあり、食事委員を担当する利用者が進行役を担い進めています。提供している食事は手作りこだわりの、利用者の楽しみとなるよう、また、「食」を通して利用者が主体的に生活を考える機会となるよう注力しています。</p>
2	<p>タイトル 体力や身体機能を低下させないように行うリハビリは心身の健康につながるが、地域移行への希望を</p> <p>内容 理学療法士と職員が連携し、利用者に対するリハビリが行われています。職員はリハビリを行う専任を配置しており、個々の身体状況に合わせたプログラムは、理学療法士から職員にレクチャーされマニュアルにも落とし込まれ標準化も図り取り組んでいます。利用者が無理なく自発的に取り組むことができるよう言葉かけにも配慮し、メニューもどのくらい何をすれば良いのか明確になっています。体力や身体機能を低下させないように行うこのリハビリは心身の健康につながるが、地域移行への希望をつなぐことができる取り組みです。</p>
3	<p>さらなる改善が望まれる点</p> <p>タイトル 救護施設に求められる機能強化のさらなる推進力につなげるためにも、各種委員会やチームの改善活動や目標設定の具体化が期待されます</p> <p>内容 虐待防止やリスク管理委員会、口腔ケア対策やハサートアップチーム等の職員主体の各種改善活動に取り組んでおり、毎年、目標設定や年間計画を定めています。しかし、事業計画書には委員会やチームの大半がな取り組み内容は記載されていますが、重点目標や達成すべき定量・定性的目標はなく、改善に向けた活動が明確に示されていません。救護施設に求められる機能強化のさらなる推進力につなげるためにも、各種委員会やチームで何に取り組んでいくか、どういった成果、結果を目指すかといった要素をより具体化することが期待されます。</p>
1	<p>タイトル 組織的な人材育成計画を作成すると共に、職員のキャリア形成の方向性をより具体化させる組織的な働きかけの強化が期待されます</p> <p>内容 ペナロン職員を多く擁している施設では、法人職員、施設職員としてのキャリア形成を促進させるためにも個別面談を通じた人材育成を計画に取り組んでいます。しかし、法人のキャリアパスと連動した事業所の中長期的な人材育成計画は作成されておらず、また個別育成計画にはキャリアパスとの運動性の要素が十分に盛り込まれていません。組織的な人材育成計画を策定すると共に、等級ごとに求められる期待人材像に照らし合わせた個別目標を設定するなど、職員一人ひとりのキャリア形成の方向性をより具体化させる組織的な働きかけの強化が期待されます。</p>
2	<p>タイトル 利用者の支援計画は、支援内容の精査を図り、統一した支援が行えるよう、さらには利用者の理解が進む計画となるよう工夫が望まれます</p> <p>内容 利用者の支援計画は、詳細なアセスメントを基に課題の整理を行い、優先度を検討した上で支援目標を立てています。しかし、利用者によっては支援内容が多くなり、重点的に支援しなければならぬポイントが把握しにくい状況となっています。また、モニタリングについても改善が図られています。滞りなく進むにはさらなる時間を要する見通しです。今後は、支援内容として載せる項目の精査を図り、全職員が統一した支援を行うことができるよう、さらには利用者にとって分かりやすい確認しやすい計画となるよう工夫を図ることが望まれます。</p>
3	<p>タイトル 利用者の支援計画は、支援内容の精査を図り、統一した支援が行えるよう、さらには利用者の理解が進む計画となるよう工夫が望まれます</p> <p>内容 利用者の支援計画は、詳細なアセスメントを基に課題の整理を行い、優先度を検討した上で支援目標を立てています。しかし、利用者によっては支援内容が多くなり、重点的に支援しなければならぬポイントが把握しにくい状況となっています。また、モニタリングについても改善が図られています。滞りなく進むにはさらなる時間を要する見通しです。今後は、支援内容として載せる項目の精査を図り、全職員が統一した支援を行うことができるよう、さらには利用者にとって分かりやすい確認しやすい計画となるよう工夫を図ることが望まれます。</p>

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	その姿を子どもに見せることで、子どもに興味を持たせて、その様子を見てから保育の中に取り入れています
	内容	大人が始めて、その姿を子どもに見せることで子どもに興味を持たせて、子どもの様子を見てから保育の中に取り入れていくことがあります。「みんなでやるよ」と職員が声を掛けることで子どもが興味を示し、真似をしながら遊びに参加することで、色々な遊びを覚えていけるよう働きかけています。戸外活動には職員が作成したポシェットを持ってドングリを拾いに出かけて行き、持ち帰ったドングリで製作を楽しみます。ポシェットはクラスに配置していくことで次の子どもに引き継がれていき、子どもへの働きかけは色々な方法で取り組まれています。
2	タイトル	年齢別年間食育計画を作成し、「子どもが食べたい」と思う食事の提供に取り組んでいます
	内容	0歳児から5歳児まで、食育という視点で、各年齢における「子どもの姿」と「一年間大切にしていきたいこと」を1年間を5期に分けて年齢別年間食育計画を作成しています。食育のイベントでは職員が「3色レンジャー」に扮し、それぞれの栄養素を赤、青、黄で説明し、「魚」を解体ショーを取り入れたり、黄について子どもはどの場面も歓声を上げており、楽しみながら食を考える機会となりました。毎日のメニューは季節の食材を取り入れ、伝統を伝えるもの、行事に合わせたものなど、「子どもが食べたい」と思う食事の提供に取り組んでいます。
3	タイトル	気づきメモは多くの職員が提出され、工夫されたアイデアが盛り込まれています
	内容	園では利用者の安全安心な環境づくりを目指しています。園では、既に事業継続計画(BCP)を策定しており、防災訓練時の課題等を事業継続計画に反映させるなど修正を行いながら計画充実に取り組んでいます。また、園内の気づきを多くの職員が「気づきメモ」に書き出す仕組みが浸透しています。用紙は事故報告書の半分で、短時間で書ける書式になっています。文字だけでなく、写真、小石、ガラス、虫が張り付けられており、書く時間が短縮できるだけでなく、記憶に残りやすい運用と推察されます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	法人と連動した中長期計画策定が期待されます
	内容	園の事業計画書を見ると、単年度では解決できない中長期の視点で改善すべき項目を掲げております。法人、園の取り巻く環境の整理して、法人内部、園の内部環境を踏まえた中長期計画策定の視点も必要です。園の中長期の視点だけでなく、法人は多くの施設種別を抱えて事業を行っていますが、いずれこうなるからといった中長期の視点を踏まえて事業計画書の策定が期待されます。単年度事業計画書には、3か月単位で進捗を掲げて、定期的に振り返りを進める事が期待されます。
2	タイトル	事業計画書への人材育成計画の目的・年間研修計画の記述をまとめられることが期待されます
	内容	年度別取り組み項目がコンパクトにまとめられ、又、法人との連携、4園一体で行動する事などが明確にされており、日頃から経営層が既に話し合った成果と推察されます。行事予定も予算案が付いていたり、重点項目と考えている委員会活動は、月次予定表が作られている等、振り返りがしやすくなっています。ただし、職員育成に関する記述が少ないため、既にまとめられているようですが、委員会設置や研修計画立案、職員交流等による研修等も4園合同で企画して人事交流を含めた取り組み等の検討結果を事業計画書に反映される事が期待されます。
3	タイトル	今後の取り組みとしては、SNSに関する取扱いルールを明確にして、保護者、職員と共通理解が持てるよう整理することも期待されます
	内容	「個人情報保護の利用目的」として重要事項説明書内に、園児へのサービス提供に必要な利用目的、他の事業所等への情報提供に関する利用目的、その他の利用目的と、何のために個人情報を園が利用するのかを保護者が理解できるよう丁寧に記載し、同意を得ています。また、法人として定めている個人情報保護に関する基本方針も資料として重要事項説明書内に一緒に記載しているため、その根拠も知ることができています。今後の取り組みとしては、SNSに関する取扱いルールを明確にして、保護者、職員と共通理解が持てるよう整理することも期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「子どもも自分がある」ことを尊重して、子どもが様々な経験を重ねて、心も体も「たくましく」、成長していけるよう取り組んでいます
	内容	「子どもも自分がある」ことを尊重して、子どもの「やりたい」を引き出すよう気持ちを受け止めています。一人で遊ぶを楽しむ時間、友だちと一緒に活動する時間、異年齢での取り組み、自分の体づくりにつながる健康体育、「食べるって楽しいね」という言葉を引き出せるよう工夫している食育と、子ども一人の動きとみんなの動きを組み合わせ、個も大切にしながら相手を思いやる気持ちが育つよう保育を組み立てています。子どもが様々な経験を重ねて、心も体も「たくましく」、成長していけるよう取り組んでいます。
2	タイトル	理事長から基本理念の話を聞く機会を持てたことで、職員自身の理念の捉え方を再確認し、理念の実践者としての自信につながりました
	内容	昨年度から「法人理念の徹底」を目標に、基本理念をキーワードごとに分け、実際の保育との結びつきを考える内部研修を通して、理念の理解・浸透を進めてきました。今年度は理事長から基本理念について直接話を聞く機会を作り、基本理念の土台になっている前理事長のマザーテレサの話や愛についての考え方、上杉鷹山の話、「思いやり」についての話を聞くことが出来ました。職員にとっては理事長の人柄や考えを知るばかりでなく、職員自身の理念の捉え方の再確認にもつながり、理念の実践者としての自信につながったのではないかと推察されます。
3	タイトル	「地域になくてはならない保育園となる」ことを中長期計画の目標に据え、地域に根差した活動が展開されています
	内容	園の長期計画の最終到達目標は「地域になくてはならない保育園となる」ことが事業計画書の中長期計画に定められています。園長会やエリア会などの地域関係ネットワークに参画しながら、地域の子育て家庭に対するアプローチについての情報を収集しています。園庭開放やプレママ体験、リピーターも多い紙芝居やさん、「子育て玉手箱」という子育てに関するコラムの執筆も手掛けており、「ふじみのひろば」で情報発信しています。今年度から近隣の高校から放課後の時間を活用したボランティアの受け入れも始まり、地域に根差した活動が展開されています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	組織やサービス改善を推進するためにも目標設定や役割分担を具体化し、目標達成に向けた進捗管理の精度を高めることが期待されます
	内容	事業計画書内に中長期計画を設定し、それを踏まえた重点運営方針と重点サービス計画を作成しています。しかし、理念の実現に向けた行動計画ごとに目標値(ありたい姿)や役割分担が設定されていません。例えば、「理念の浸透を図り、その具現化に向けて取り組みに努める」ために誰が、何を、どのように、どのくらい取り組めばよいか共通認識を図りにくい状況と推察されます。職員が主体的に組織やサービス改善に取り組んでいくためにも、目標値(ありたい姿)の設定や役割分担を明記し、目標達成に向けた進捗管理の精度を高めることが期待されます。
2	タイトル	次世代の人材育成を視野に入れて、若手職員からの発言機会を増やし、発信力を高めていくための工夫が期待されます
	内容	「気づきカード・ひやり・ハット」を用いて、職員の気づきを他職員と共有できるよう、通用口に掲示し、共有しています。この書式はリスクマネジメントの予防的対応を目的として用いていますが、職員からの「もっとこうなったらいいな」「こういうことは出来ないか」といった広義の気づきを集約することで、業務改善や新たな取り組みに向けた提案につながると推察されます。次世代の人材育成を視野に入れて、業務改善や提案型の気づきの集約や少人数による会議の開催等、若い職員からの発言機会を増やし、発信力を高めていくための工夫が期待されます。
3	タイトル	年間指導計画は、各期での保育の目安となる発達段階がわかるよう工夫することが期待されます
	内容	今年度、保育所保育指針の改訂に伴い、「全体的な計画」を時間をかけて職員全体で完成させ、この全体的な計画に基づき年間指導計画を各クラスで作成しました。新たな指針に合わせて作成するため、キーワードを設けて色分けをしながら落としこむなど工夫して作成しています。しかしながら、1期にその年齢の成長の姿が記載されているため、その他の期に考えられる子どもの姿や発達状態の記載が薄く、振り返りにくい書式であるように見受けられます。各期での保育の目安となる発達段階がわかるよう工夫することが期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	クラス単位の活動や異年齢児との生活の中で、意欲や優しさを育てており異年齢保育を通して子ども達の育ちが豊かなものになっています
	内容	幼児は3・4・5歳児混合の異年齢保育で3クラスを作り、5歳児が卒園すると、このクラスに3歳児が加わり一緒に生活をします。毎週木曜日は年齢別で活動し、午睡後のおやつから「ただいま」と挨拶して異年齢で過ごします。異年齢の担任が年齢別の担任を兼ねており、子ども達に浸透しています。年長児はお泊り保育時や1月からは就学に向けて年齢別保育を実践しています。年齢別単位の活動や異年齢児との生活の中で、意欲や優しさを育てており異年齢保育を通して子ども達の育ちが豊かなものになっています。
2	タイトル	育てること、収穫して食すること、献立を考えるなど子どもが興味を持てる食育活動が行われています
	内容	今年度は食育に力を入れ、栄養士は夏野菜の栽培を担当し、子どもたちも水やりなどを担当し、収穫したあとと食材としていただきました。また、トウモロコシ・玉ねぎの皮むきなどの体験もできました。行事の餅つきの時は餅つき後にデイサービスに出向き、デイの利用者と一緒に鏡餅を作り楽しい時間を過ごしました。誕生月の年長児は調理員と自分達の好きなメニューを話し合い、その日のメニューとおやつを決めてリクエストメニューとして提供しています。育てること、収穫して食すること、献立を考えるなど子どもが興味を持てる食育活動が行われています。
3	タイトル	勤務形態に関わらず、非正規職員や派遣職員を組織の一員として、また戦力として組織・保育の底上げに取り組んでいます
	内容	保育士の約半数を占める非正規職員や派遣職員を組織の一員として、また職員不足のなか戦力として、勤務形態に関わらず組織・保育の底上げに取り組んでいます。年度初めと年末の園長との個別面談を通して、非正規職員からみた組織や保育の状況についての意見や要望を汲みとり、業務改善等に反映できるようにしています。非正規職員にも虐待防止研修の受講や虐待の芽チェックリストによる日々の保育や言動の振り返りも行い、共通認識を図っています。職員全体が法人ならびに園の職員としての倫理観も共有して職務を遂行するよう取り組んでいます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	集計・分析の精度を高め、職員の気づきを生かした再発防止策や予防策のさらなる強化が期待されます
	内容	職員の危機管理意識を高めるために、散歩コースや園庭の場面から危険箇所を予見、予防策を講じる危険予知トレーニングや園内外で起こった事故・ケガ・ヒヤリハットについて所定の様式を用いて記録化し、委員会にて集計・分析を行っています。しかし、ケガとヒヤリハットの線引きがあいまいなため軽微な事故も含まれており、集計・分析に関してはまだ改善の余地があります。また、虐待防止チェックリストにて虐待の捉え方を確認していますが、やはり分析という視点は弱い状況が見受けられます。これらの取り組みを強化することが期待されます。
2	タイトル	様々な職員の持ち味を活かし認め合いながら、職員一人ひとりが良好な職場環境を改めて構築すべく取り組むことが期待されます
	内容	年度初めに「子どもたちが安心して過ごせる園とは？」、「保護者が安心して預けられる園とは？」について職員間で議論しました。人事異動や職員の入れ替わりもあり、人員確保も行いつつ、今年度は副主任を任命し、職員体制の強化に取り組みました。園には様々な職種の特長を持つ職員がおり、園長は職員がトータルで協力し合うことで「チーム」となれることを職員に伝えています。それぞれの立場だけではなく、様々な職員の持ち味を活かし認め合いながら、職員一人ひとりが良好な職場環境を改めて構築すべく取り組むことが期待されます。
3	タイトル	地域にも、保護者にも当園の目指す保育方針が「伝わる」方法を職員間で意見を出し合い検討することが期待されます
	内容	地域子育て支援事業として「ほほえみ広場」を行っており、「ほほえみ通信」にて子育て支援の予定を掲載しています。地域子育て支援事業は毎月の身体測定や栄養相談のほか、園行事への参加など多岐に渡っており利用者は増大傾向にあります。また、園の意図する取り組みが保護者に伝わりきれていない現状があるものと推察されます。地域にも、保護者にも当園の目指す保育方針がどのように子どもの発達や生活につながっているのか等、「伝わる」方法を職員間で意見を出し合い検討することが期待されます。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	安全な園生活を送ることができるよう、あらゆるリスクを想定して訓練を行っています	
内容①	リスクマネジメント委員会を中心に年間計画を作成して子どもたちが安心して園生活を送ることができるよう、職員の「気づき」を持って取り組むことができるよう注力しています。事故や嘔吐、熱性けいれん、SIDS(乳幼児突然死症候群)の発生を想定したシミュレーションや保育場面を切り取って行う、危険予知訓練、不審者対応や避難訓練等、あらゆる危険やリスクを想定して訓練を行っています。事業継続計画も外部研修に参加して園独自の計画を作成していますが、移転後の状況に合わせて今後見直す予定となっており、準備に余念がありません。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-2	全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している
タイトル②	0歳児の受け入れに際して離乳食の勉強などを職員全員で取り組んでいます	
内容②	今年度8月より低月齢の0歳児を受け入れることになり、年度初めに職員全体で0歳児の年間指導計画を作成する話し合いを重ねました。合わせて離乳食についての内部研修も行い、栄養士を中心に子どもの発達と食材の形態や軟らかさ等を実際に試食しながら勉強しました。当園はそれ以前にも、新保育所保育指針と保育過程のすり合わせを職員全体で長期的に取り組んでおり、職員全員で園の保育について考え、意見を出し合う姿勢が見られます。経験や環境の違いがある職員集団ですが、一丸となって「ひよし保育園の保育」を作っている姿勢が素晴らしいです。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル③	事故が発生した場合は再発防止策の最終的な検証が丁寧に行われています	
内容③	園内で事故が発生した場合は、事故報告書に記載し状況をまとめています。事故発生状況(発生場所・時間・状況)、園内での処置、保護者への報告、園長または責任者への報告を表面に、受診病院、受診結果、受診後の保護者への報告を裏面に記載しています。発生時と受診時に保護者にどのように報告がなされたのか、双方を確認することができます。さらに、治療経過と再発防止策の改善点も記載する欄があり、最終的な検証が丁寧に行われています。事故については朝礼で伝達し、職員会議で最終的な報告がなされ、事故予防に対する意識を高めています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	栄養士、保育士、子どもが一緒になって充実した食育活動に取り組んでおり、安心して美味しい食事が提供されています。
	内容	毎月の給食委員会で栄養士、主任、各担当が献立や食育活動に関しての話し合いをしています。乳児から食材に触れ、野菜の皮むきやきのご割りなどを行っています。栽培した野菜を食べる事や、調理活動も積極的に行なっています。栄養士や調理員も協力して包丁や火を使うことも経験しています。3、4、5歳児合同のバイキング給食では、子どもたちがメニューを決めて調理室に依頼し、それを受けてアレルギー児も食べられる食材を使ってリクエストに答えています。与えられるのではなく、子どもたちが主体的にかかわる食育活動が実践されています。
2	タイトル	園庭、保育室の環境設定などの見直しにより、子どもたちは遊びに集中し、遊びを通して友だちと関われるようになってきました
	内容	新園舎への引っ越しは園庭、保育室の環境設定などについて見直す良い機会となりました。室内は子どもたちの密度が高くないようにコーナーを作り、子どもの手が届く所に玩具や絵本を置き、子どもの主体性も大切にしました。園庭には複合型の固定遊具はあえて設置せず、シンプルな遊具と「整えない環境」を意識しました。園庭の端にある側溝を線路に見立てて電車ごっこをするなど、子どもたちは自分なりの遊びを楽しむようになりました。環境設定を変えたことで、子どもたちは遊びに集中し、遊びを通して友だちと関われるようになってきました。
3	タイトル	保育所保育指針の改訂に伴い、職員全体で知識を持ち寄り、知恵を出し合い、「ひよし保育園の保育」の確立に取り組みました
	内容	保育所保育指針の改訂に伴い、ほぼ全員の職員が研修に参加して受講した内容を持ち寄り、全体で話し合いを重ね、「全体的な計画」を策定しました。幼児保育については「結果ではなく過程を大切に保育を行っていくこと。」「できる・できないに陥った保育にならないようにしていくこと。」「について確認しました。新たな低月齢の0歳児の受け入れに伴い、0歳児の年間指導計画も策定し、0歳児の発達についても職員全体で勉強会を行いました。職員全体で知識を持ち寄り、知恵を出し合い、「ひよし保育園の保育」の確立に取り組みました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	経営層が意図すること、職員に実感として持ってほしいことを可視化して共有できる方法を検討することが期待されます
	内容	園で策定している事業計画は当園の運営に関すること、保育に関することに対してそれぞれ、重点運営方針を掲げ、実行に向けて取り組んでいます。これら達成度合いは半期反省会議や年間反省会議で行われています。半期反省会議内では、事業全体に対する振り返りも行われていますが、職員には組織全体の取り組みという捉え方には至っていない状況が見受けられます。経営層が意図すること、職員に実感として持ってほしいことを可視化して共有できる方法を検討することが期待されます。
2	タイトル	職員の気づきを集めた「気づきメモ」や各種会議での検討事項などをマニュアルの見直しにつなげる取り組みが期待されます
	内容	園で作成している各種マニュアルは、28年度の運営開始の際作成した「保育士 早番遅番勤務確認事項」、や園長から発信した「職員確認事項」は、職員として押さえてほしいマナーやルールを簡潔にまとめており導入の段階で標準化を図りました。その他、職務分担当でそれぞれの役割を明確にし、必要なところから少しずつ整理していますが、滞っている現状もあります。職員の気づきを集めた「気づきメモ」や各種会議での検討事項などをマニュアルの見直しにつなげることは有効と推察されます。今後の取り組みが期待されます。
3	タイトル	子どもの姿や保護者とのやり取りなどが把握しやすくなるよう記録を整理することが期待されます
	内容	子どもの基本情報は児童票や発育記録に記載されています。また、0、1、2歳児は毎日の日誌に食事量や排泄、体調、睡眠などを含めた個人の記録を残し、幼児クラスになると、日誌の特記欄に個別の様子を記入しています。クラス毎のカリキュラム会議の内容はクラスファイルに、保護者との個人面談の記録はクラス日誌に記入されています。子どもたち一人ひとりの記録が丁寧になされているものの、記録が散在しているために把握しにくいことが推察されます。子どもの姿や保護者とのやり取りなどが把握しやすくなるよう記録を整理することが期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	個々の障害に適した作業提供に多種の作業を安定的に受注し、高品質の維持や納期の遵守に信頼を得て利用者への高工賃支給につなげています
	内容	個々の障害に適した作業提供ができるよう部品の加工、組み立て、DM封入など難易度の高い作業から軽作業まで多種を請け負っています。目標工賃達成指導員を配置し、厳しい検査や検品による高品質の維持や納期の遵守などや短い納期には敏速な対応の強化に心がけ、信頼を得ながら安定した受注と作業活動により高い水準の工賃支給につなげられるよう努めています。作業は障害の特性や個々の状況に応じられる日課編成で行い、作業時間や休憩時間の調整による負担軽減と集中力の維持に留意しながら利用者の就労意欲向上に取り組んでいます。
2	タイトル	昨年度から継続して取り組んできた基本理念の浸透を通して、職員が日々の支援との結びつきを意識できるようになりました
	内容	基本理念と方針の周知徹底を図るべく、昨年度から継続して法人の基本理念「福祉サービスを必要とするすべての人々に、その人の人格の尊厳を守り、その人の環境、年齢及び心身の状況に応じて本来的な生活を築き、生命の輝きを見出すことのできる福祉サービスを提供することである」を毎月唱和を続けています。また、個別面談時や会議の際に、施設長より基本理念に関連する話をし、日々の支援との結びつきを職員が意識できるように働きかけました。その甲斐もあり、職員自己評価では基本理念が浸透している状況が推察されました。
3	タイトル	看護師の配置、健康診断、口腔ケア指導などの健康管理と全職員の救急救命講習受講により急変時の速やかな対応体制を整えています
	内容	事業所は看護師を配置し毎日各階の作業・訓練室を巡回し利用者の健康状態を把握し、受診時には必要に応じ主治医に手紙を書くなど連携を図っています。健康に関する相談にも応じる看護師の存在は利用者の安心につながっています。口腔ケアが重要視されている今日、定期的に歯科医師会による口腔ケア指導の実施に対し、市より表彰されました。多様な障害の急変時に速やかな対応ができるよう全職員は救急救命講習を受講できるようにしています。日々は内線用携帯を所持し常に連絡が取れる体制を整えるなど利用者の健康維持に留意しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	基本理念や基本方針の具現化に向けて、事業計画書の内容を具体化し、職員間で共通認識が図れるような目標設定の工夫が期待されます
	内容	昨年度から取り組んできた基本理念と基本方針の周知・実践を促進させるためにも、事業計画書の行動内容をより具体化させる必要があります。職員会議において、定量目標の進捗管理はなされていますが、定性目標についての進捗管理は十分とはいえない状況です。抽出された組織やサービス課題に対する行動計画について、職員間で共通認識が図れるような具体的な定性目標(ありがたい姿の明確化)や定量目標に置き換えるなど、目標設定の工夫を行うことが期待されます。
2	タイトル	キャリア形成の中長期的な展望と連動した次世代の事業所経営を担う人材育成を見据えた育成計画書の策定が期待されます
	内容	職員ごとに研修計画を立て、個人面談の際に職員に期待することを伝えると共に、職員自身が立てた目標の実現に向けて受講を希望する研修等を決めるなど、組織が職員の自己研鑽を後押しできるようにしています。しかし、職責や職務内容に応じたキャリア形成の中長期的な展望と連動した事業所の人材育成計画は作成されておらず、中長期的な視野でみると、職員の定着・育成は気を許せる状態ではありません。次世代の事業所経営を担うことになるリーダー層の育成や次世代のリーダー層の育成等を見据えた人材に関する育成計画書の策定が期待されます。
3	タイトル	個別支援計画の見直しに有効な記録となるよう、職員間で必要となる記録を残す工夫が期待されます
	内容	支援ソフトを活用し、利用者日々の取り組みについて個別に記録がなされています。業務に就く前に支援ソフト内に記載されている様々な情報を確認するよう周知を図り、利用者の状態を把握して支援にあたるよう、利用者個々の個別ケース記録など閲覧することは可能とし、職員間で共有できる仕組みは整えています。その一方で、ケース記録は利用者や家族に確認いただく、サービス提供記録を兼用していることから、個別支援計画の見直しに有効な記録というにはまだ改善の余地があります。職員間で必要となる記録を残す工夫が期待されます。